

平成 28 年

## 第 2 回総合教育会議会議録

(開会 平成28年12月19日)

(閉会 平成28年12月19日)

岐阜県可児市教育委員会

平成28年12月19日午前11時15分開会

**出席者**

富田成輝（市長）

生駒隆昌君（教育委員）

丹羽千明君（教育委員）

長瀬治義君（事務局長）

梅村高志君（学校教育課長）

籠橋義朗君（教育長）

小野口裕子君（教育委員）

星野京子君（教育委員）

細野雅央君（教育総務課長）

**教育委員会事務局職員**

石原雅行君（教育総務課総務係長）

本田雄太君（教育総務課総務係）

### 開会の宣告

- 市長（富田成輝君） 平成28年度第2回総合教育会議の開催を宣告。

### あいさつ

- 市長（富田成輝君） お忙しい中、お集まりいただき感謝する。

今年も終わりに近づいたが、可児市の小・中学校においては特に大きな問題もなく、また一方で笑顔の学校をはじめ、英語教育、あるいはふるさと体験等々、順調に子どもたちのための施策も進み、浸透もしてきたように思う。これからも、教育大綱にあるように、子どもたちが自分の夢を実現できるよう成長する応援をしていきたいので、引き続きご協力をお願いします。

本日の議題は平成29年度教育費予算についてとその他とある。ご自由に意見を頂戴したい。

### 議題

- 市長（富田成輝君） 1つ目の議題、平成29年度教育費予算。来年度の予算について、市長査定が一部始まってきた段階である。委員の皆さんから、こういった事業に予算をつけるべきだなど率直な意見をお聞かせ願う。
- 教育委員（小野口裕子君） 第1回総合教育会議でも出ていたが、特別支援教育の中で特に人的な部分で予算をいただきたいと思う。特別支援対象の子どもは年々増加してきており、それに加え、発達障がい等の通級支援を要する子も6.5%は存在すると言われている。学校訪問時、教職員からは人が欲しい、人が欲しいと切にお願いをいただいている。
- 市長（富田成輝君） 支援学級の子どもたちに自分の夢を見つけていけるようになってほしい。そういった子に育てるのは大変重要なことだと感じている。具体的にはスクールサポーターを増やしたいということか。
- 教育長（籠橋義朗君） 先生を増やすことは市ではできないので、まずはスクールサポーターからお願いしたい。
- 市長（富田成輝君） また、いい人材の確保も課題である。誰でもというわけではなく、現場に合った方を配置したい。事務局には現場の声を確認いただきたい。
- 教育委員（小野口裕子君） 加えて、障がいを持つ子どもたちへのかかわり方は、それぞれ違うので、そういった研修費用も合わせて検討いただきたい。
- 市長（富田成輝君） 現在のスクールサポーターの対応状況はいかがか。

- **学校教育課長（梅村高志君）** 現在は16校に59人配置している。毎日5時間程度各学級をみている。研修については、基本的にOJT、現場で経験値を高めていく方針である。また、各学校長から高評価をいただいている。
- **教育委員（丹羽千明君）** 前回の総合教育会議で、特別支援学級にタブレット導入をお願いしたところ、予算要求に入っているのでぜひ実現していただきたい。タブレットの有効性についても審議したので、まずは試験的に導入し、効果があれば各校へ広げていただきたい。
- **市長（富田成輝君）** 複数の子を1人のサポーターが見ているので、誰かを見ているときにほかの子はタブレットで学習等の活用をしたいということによろしいか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** はい。基本的には特別支援学級の定員8人に対して1人の指導者がつく。特に情緒学級では落ちつきのない子が多い中で指導しなければいけない。そのときのセカンドティーチャーとして極めて有効であるという報告を受けている。障がいによっても対応は様々で、そこに適切に対応できるアプリが開発されているということで、今後、教育的効果が高いと期待している。
- **教育委員（小野口裕子君）** 視覚でなら理解しやすいという子もいる。タブレットを希望する学校の先生は、その活用法を十分に熟知した上で希望している。全学校に広めるにしても、使いこなせるよう指導等が必要になると考える。
- **市長（富田成輝君）** 忙しい中、研修等は難しいかもしれないが、職員で情報を共有し効果的に使用いただきたい。タブレットを使った教育の、より効果的な方法は確立されているのか。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 先進的な実践はある。教育研究所がシンクタンクとして視察等行っている。特別支援学級の特長として異学年の子どもたちで構成されており、その場合の教員の対応についても有用性があるという報告も聞いてきている。より有効な方法は現在も探っており、導入となれば、教育研究所を中心とした担当者研修は実現可能だと考える。
- **市長（富田成輝君）** 先生と子どもが直接触れ合う教育のほうが大事であるが、先述のとおり、特別支援学級という特別な環境ではタブレット等を有効に生かす教育を模索していただきたい。
- **教育委員（星野京子君）** 対面での教育が一番大切であると感じている。学校を回ると、スクールサポーターのおかげで本当に助かっているとよく聞く。また、可児市の特徴として外国籍の子どもが多いため、通訳サポーターの配慮もいただきたい。

- **市長（富田成輝君）** 可児市には外国籍の方が多いということで、ばら教室等でも活動していただいている。外国籍の子どもたちが育っていき、そのうちの何人かは地域で暮らしてもらおうという、いい手本に可児市がなればと思う。
- **教育委員（星野京子君）** 最近の影響として、外国籍の子どもたちの高校の進学率も上がってきていること等、喜ばしく思う。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 先日の音楽会の話で、ばら教室の子どもたちが一緒になって歌っており本当に感動した。また、ばら教室の卒業式は毎月末にあり、小学生も中学生も短くはあるが将来の夢や希望についてスピーチをして各小中学校へ分かれていく。可児市としてもその想いを受けとめ、将来キャリアでよき市民として働いてもらえる道をつくっていただきたい。最近は待機が出ている状態のため、今後も見据え、拡充していただけるとありがたい。  
また、今渡北小学校等で外国籍の子どもたちを中心に増えている。教室増の対応も考える時期に入っていると思うので予算化していただきたい。
- **市長（富田成輝君）** 可児市が若い世代が魅力を感じて住むまちという施策を行い6年になる。施策がうまくいけば子どもが増える。外国籍も日本の子も、保育園、保育所も足りないぐらい。施策を行う前提として、うまくいけば関連予算は増大する。逆に増大がないということは施策が失敗しているということ。財政的な制限はあるが、効率良く整備できるよう考えたい。
- **教育委員（丹羽千明君）** 今渡北小学校は4年後には1,000人を超える可能性もあるという数字も出ている。その後には蘇南中学校も。それ以上になるとも考えられるので、注視していただきたい。
- **市長（富田成輝君）** 非常に難しい問題。全体的に子どもの数が減っている中で増えている。そういう政策を行ったいい結果であるので、どう見込むかをしっかり見極めたい。
- **教育長（笹橋義朗君）** 広見小学校も児童が増え、今渡北小学校に近づいている。嬉しい悩みではあるが。
- **教育委員（小野口裕子君）** キッズクラブの部屋が不足しているという問題もある。
- **市長（富田成輝君）** 学校に協力いただいているが限界はある。例えば、学校で受けとめれない分は公民館をコミュニティーセンターにして利用するという方法もある。各地域で公民館のニーズが違うと思うので、今後、議論していく必要がある。

- **教育委員（小野口裕子君）** 特別支援教育育成会の補助金について、金額は減っていないが、子どもたちは増えているため、その分の配慮をいただきたい。
- **学校教育課長（梅村高志君）** 今回、1人当たりの金額を過去に配当した基準を加味し予算計上した。
- **教育委員（生駒隆昌君）** 学校給食について、原材料の高騰などあるが、市長のお考えはいかがか。
- **市長（富田成輝君）** 原材料の高騰については、予算の厳しい中工夫して対応いただいていると報告がきている。方針についても可児市は教育委員会と連携はできている。
- **教育長（籠橋義朗君）** 原材料の高騰をふまえ、給食費については検討する時期に差しかかっていると考えます。
- **教育委員（小野口裕子君）** 全国を調べると、給食費の無償化は26都道府県57市町村で実施されているが、市長の考えはいかがか。
- **市長（富田成輝君）** 方針として無償化はしない。理由は2つある。1つは子どもを引き入れるためのこういった競争はしてはいけないと私は考えている。日本が税金を過剰に使い出したのはそこだと考える。きっかけは、すぐやる課、何でもやる課。それをやり出して、サービス競争になっている。都市部から遠方の地域が少子化対策として実施するのは理解できるが、地域として条件の良い可児市が先導をきって実施する必要はない。もう1つは財政的に給食費のために5～6億円も使えないということ。その予算があればスクールサポーターの配備など、行政でしかできないところに投入していきたい。  
給食費無償化をしてはいけないということではないが、そのツケを後世に残すわけにはいかない。地域として条件の良い市町村は実施するとしても最後でないと、地域全体を壊してしまうと考える。
- **教育委員（丹羽千明君）** 私も無償化はすべきでないと考えます。むしろ材料費が高騰している状況で、満足のいく給食を提供するために値上げの時期が来ていると考えます。平成21年から値上げはしていない。献立表を7年前の内容と比べると、デザートや青物野菜を減らしたり、もやしをふやしたりなど、様々な工夫でなんとか維持している状態。近隣市町村と比べることも大切であるが、子どもたちの給食のことを第一に考えたい。
- **教育長（籠橋義朗君）** 人件費や給食センターの建物などの経費は市で負担するが、食べるものは親が負担するというのは原則であると考えます。そういった文化は残したい。
- **市長（富田成輝君）** そのような意見もあるし、いろいろある。誰が負担するかとい

うことも大事。また、そのようなことはないと思うが、給食をつくる側が安易に知恵を使わずに運営されてもいけない。これもしっかりと議論していきたい。

#### 閉会の宣告

- 市長（富田成輝君） 今後も教育委員の常日ごろ考えを聞かせていただければありがたい。平成28年度第2回総合教育会議の閉会を宣告。

閉会 午前12時10分